

10年後の自分と、京都のまちの、  
ミライとモンドイを考える。  
**京都市基本計画審議会**

**U35**のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

# 傍聴記

vol.16

第3回融合委員会の目的  
未来像と重点戦略の検討



レポーター 深田 雄志さん

日本患者学会代表理事。市民の立場から医療を守るビジネスを学生と展開してきた。自身もパニック障害という難病と闘う。Twitterと婚活がマイブームの30歳

## 会議のポイント

### POINT 1. 僕らの2020年、 最初の案が見えた！



「低炭素」「歴史・文化の継承・発展」「京都型経済モデル」「人材」「協力社会」の5つのキーワードを市民みんなで描く2020年の姿としよう。第2回会議の意見をまとめた宗田委員長から提案がありました。これを基に「生活者である市民の視点で議論を」、「人口を増やしていくといった方向性を出していくべき」などの意見が出されました。

### POINT 2. 市民と共有できる 「未来像」の表現を考えよう



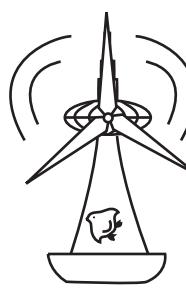
未来像は相互に密接な関連があるため、縦軸横軸にとるか、五角形に配置するか、そんな話題になりました。一方で、松山委員から「実際に携わっている人のやってみたいという気持ちを引っ張り上げるような視点を入れたほうがよい」との発言もあり、市民と共有できる未来像の表現を検討することが今後の課題となりました。

### POINT 3. 共に支えあう社会と地域のことを 自ら考える社会を考えよう



未来像の一つである「協力社会」について、乾委員から「市民参加や地域分権を実現するにはパートナーシップを実質的にしていくという点が非常に重要な視点だ」との意見が出され、共に支えあう社会という未来像と共に、自主・自立による地域経営の観点の重要性が指摘されました。

### POINT 4. 「京都らしさ」を存分に活かし 「地域主権時代のモデル都市」に



立石副会長の「京都の特性を活かし、他都市より先駆けたビジョンとすることが大切」という御発言を踏まえ、京都らしい未来像について議論が及び、乾委員から「語る中身が東京や大阪などでも一緒というのは、よりよい生活を目指す以上は当たり前の話。取り組み方が大切だ。」との意見がだされました。

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。  
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

## この会議を傍聴して、深田さんが思ったこと。

立石副会長の「人口減少社会を想定し」「生活者の視点で」、「他都市より先駆けたビジョン」をつくる、というメッセージに同意できました。世界的企業の指揮者、経営者として戦略を立てたら、それに責任をもち、不可能を可能にしてこられたのだと思うと、発言に重みが感じられました。基本計画にご尽力された委員さんが10年後まで都市経営を監督できる。京都市でそんな未来の経営ができたら素敵だな、と思います。

## 私ならこうする！未来の京都に向けた深田さんの提案

未来像単独ではなく、それを実現するための重点戦略とセットで検討していくことが大切だと思いました。パブリックコメントなどの機会を利用して、5つの柱それぞれに、キャッチャーな項目を、若者らしい観点で提案していくことが、未来の担い手である若者の役割であるような気がします。また、最近の国際社会のトレンドや内外の議論を踏まえ、これこそ未来像・重点戦略という表現を提案したいな、と思います。

## 当日のプログラム

開催日：平成22年2月2日（火） 会場：京都商工会議所

- ・第2回融合委員会における議論の結果を基に作成した未来像（案）を検討
- ・重点戦略の定義を確認し、未来像を実現するための重点戦略を検討
- ・分野別方針（素案）イメージを共有

## 「京都市基本計画審議会」、「U35」とは

「京都市基本計画審議会」とは、10年後の京都を見据えて、今後10年間の京都市の指針となる計画を立てる重要な会議です。「U35」とは「未来の担い手・若者会議U35」のことをいい、基本計画の策定に対し、未来のまちづくりの担い手として、若者ならではの観点から提言を行う、概ね35歳未満のメンバーで構成された会議です。皆さんも会議の傍聴にお越しください。

### 京都市基本計画審議会 第3回融合委員会 開催結果

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000075587.html>

### 未来の担い手・若者会議 U35

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000071812.html>